

# ロボット相撲東北大会 高校の部

# 山形電波工 2部門連覇

第29回全日本ロボット相撲東北大会が24日、天童市の山形電波工業高で開かれた。同校チームが高校の部の自立型とラジコン型でそれぞれ優勝した。2部門連覇を地元で決めた。

コンピュータープログラムを内蔵した自立型、リモート操縦のラジコン型に分かれて競う。高校の部には、青森を除く東北5県から自立型に15台、ラジコン型に26台が出場。本県からは電波高のみ4台が出場した。出場制限のない全日本の部には79台が挑んだ。

直径154ミリの鉄板の土俵でロボット力士がぶつかる。幅・奥行き20センチ以内、重さ3キログラム以内と小型だが、

優勝を決めた左から川村健人さん、菅原樹さん、市川翔一さん、丹羽芽生さん  
＝天童市・山形電波工業高



強力なモーターを搭載し、パワフルで動きも速い。前面のブレードで相手をすく

おうつするが、機体の下に強力な磁石を張り付けているため、押し合いの場面で

はタイヤの摩擦で煙が上がるほどの迫力だ。

自立型で優勝したのは、操作員が市川翔一さん(3年)、補助員が丹羽芽生(いぶき)さん(1年)のチーム。この部門で同校の優勝は5年連続で、市川さん自身3連覇の快挙だ。市川さんは「プレッシャーがかかったけど、ブレードを動かすように改良したのが良かった」。

ラジコン型で川村健人さん(1年)を従え2連覇を決めた菅原樹さん(3年)は雄たけびを上げ「先に一本取られてハラハラしたけど、落ち着いて操作できた」と振り返った。5位に樋口光さん(3年)と川村さんチームが入り、計3チームが全国大会の切符を手にした。

富士ソフト(横浜市)と全国工業高校長協会が主催。全国大会は11月26日、埼玉県行田市のものづくり大学で開かれる。